



「桜守」のように

校長 星美登里

西門の香しい梅の花は満開で春ももうすぐそこです。「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」と言う言葉通り、あっという間に3月を迎えました。

今、子供たちは、1年間のまとめをしています。1年生は2月27日、3つの保育園の子供たちと交流会をしました。保育園の子供たちと手をつないで学校を案内したあと、教室では、「1年生ミニ体験」として「勉強」を教えていました。ランドセルを背負わせてあげたり、教科書を読んであげたり、椅子に座らせて鉛筆で線を引かせたりと、優しいお兄さん、お姉さんぶりでした。

終わった後、担任に感想を聞かれた1年生は、「保育園の子と仲良くなれました。」「ちゃんと案内できてよかったです。」「お世話は大変だった。お母さんが僕や妹をお世話してくれるのが大変なんだなあと思った。」などと口々に発表していました。保育園の子供たちと楽しく交流する中で、自分の成長と感謝の気持ちまで感じる事ができました。

一方6年生は、ただ今卒業文集の制作の真っ最中。私も下書きを読んでいるところですが、どれも大変読み応えのあるものです。6年間で学んだ大切なこと、行事を通して学んだこと、将来の夢...6年生はいつの間にこんなに物事を鋭く捉え、考え深く、表現豊かに育ったのだらうと感心しています。一人ひとりが6年間であのかわいらしい保育園児から、今の立派な姿に成長したのだと、6年間の教育の力を感じました。もちろんそれは、学校だけによるものではなく、保護者の皆様、地域の皆様のお力あつての成長です。

3月。もうすぐ桜のつぼみも膨らみはじめ、南田中の桜がきれいに咲くことでしょう。少し前のことですが、京都仁和寺の植木職人の16代目佐野藤右衛門さんの言葉が目に留まりました。藤右衛門さんは、「桜守」として桜を日本各地で名桜の保存につとめてきたかたです。

桜は守りをしないといけない木なんです。手いれではあきません。
わたしは毎朝かならずうちの桜畑をみてまわります。桜の声を毎日聞いて、光、土、水、鳥、まわりの木に気をつけなあきません。そのうちのどれかひとつでもバランスがくずれると、桜は弱ってしまうんです。...(略)...
このしごとは、なによりもまず桜への愛情がひつようなんです。
せやけど、桜はかまいすぎてもあきません。
枝が重そうやからって、棚で支えすぎるのは、桜がじぶんでなんとかしようとする力を弱くしてしまいます。...(略)...ほおっておいてもだめ、木がおかしいと思ったときに、手をさしのべられることがたいせつなんです。

佐野藤右衛門「桜守のはなし」(講談社)より引用

「桜」を「子供」と置き換えてみてください。私たち大人が子供たちを日々よく見て愛情を注ぎ、その時々で成長に必要な支援をしていけるよう、子供を適切に見守れるようになりたいものです。

春には新しい学年でよいスタートが切れるよう、万全の準備をしていきます。

3月の行事予定

月	火	水	木	金	土	日
				1 下校 13:55 保護者会(5,6) 卒業を祝う会(6) 5 5 5 5 5 5	2	3
4 S C 全校朝会 委員会 4 5 5 5 6 6	5 心ふれ 6年生を送る会 6年生とお別れ給食 5 5 5 6 6 6	6 S C 避難訓練 5 5 5 5 5 5	7 心ふれ 地域未来塾 5 5 6 6 6 6	8 下校 15:00 5 6 6 6 6 6	9	10
11 S C 4 5 5 5 5	12 心ふれ 卒業進級を祝う会(み) 保護者会(み) 5 5 5 6 6 6	13 5 5 5 5 5 5	14 心ふれ 地域未来塾 5 5 6 6 6 6	15 5 6 6 6 6 6	16	17
18 全校朝会 4 5 5 5 5 5	19 心ふれ 5 5 5 5 6 5	20 給食終 5 5 5 5 5 5	21 春分の日	22 修了式 卒業式予行 2 2 2 2 4 4	23	24
25 卒業式 0 0 0 0 4 4	26 春期休業日始	27	28	29	30	31

※ S C : スクールカウンセラー出勤日 心ふれ : 心のふれあい相談員出勤日

※ 各日の数字は授業時数です。1番左が1年生、1番右が6年生です。

※ みなみん学級の下校時刻については学級で配布した月行事予定表をご確認ください。

【3月の生活目標】

感謝の気持ちを つたえよう

いよいよ今年度も最後の1か月になりました。この1年で、子供たちは心も身体も大きく成長しました。保護者の皆様も、お子さんの成長を実感し感慨深いものがあるのではないかと思います。

今月、学校ではそれぞれの学年、学級で1年間の学習や自分の成長を振り返る機会を設けていきます。そんな中で、子供たちには自分の内面に目を向けるだけでなく、成長を支えてくれた方々への努力や気持ちにも気付いてほしいと思います。今の自分があることが、多くの方々の支えや励ましがあったからだということに気付くことで、子供はもう一段成長していきます。そして、その気づきを感謝の気持ちに、感謝の気持ちを感謝の言葉にして伝えることの大切さについても指導していきます。

進学、進級までの残り少ない時間、ご家庭でもぜひ話題にさせていただき、子供たちの心の成長を支援していただきたいと思います。

(生活指導部)

【校内研究「道徳科」について】

「自分の思いや考えをもち 表現できる子の育成～対話を深める 指導法の工夫～」道徳科を通して

本校では2年間にわたり道徳科について研究を進めてきました。この2年間の研究を通して、どの学級においても、対話が深まるような指導方法を工夫してきました。その結果「道徳が好き」「道徳の授業で自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりすることが好き」という児童が増えました。

また、今年度より3年生以上は「道徳ノート」の使用を始めました。このノートはその時間に感じた自分の思いや考えを書くものです。ノートに書くことで自分の考えが整理され、そこから対話も深まりました。さらに、そのノートを家庭に持ち帰り道徳の学習の内容についてご家族で話題にする機会をもつこともできるようになってきています。

今後も保護者の皆様と連携しながら子供たちが豊かな心を育み主体的・対話的な学びができるよう道徳の学習を進めていきたいと思っています。

(研究推進部)